

血液内科専門医を目指す

R.N 先生

総合内科勤務開始時の学年
： 卒後 3 年目

研修期間

： 2 年（基幹病院：高槻病院）

内科医としての土台が身につく

高槻病院は 477 床を有する総合病院で年間 7000 台以上の救急車を受け入れています。その中で緊急の内科系疾患での入院症例の多くを総合内科で担当しており、重症度も軽症から ICU 症例、稀な症例まで幅広く対応してい

ます。それ以外にも多数の合併症を抱えた外科症例を併診し、周術期管理を行うこともあります。また、超高齢者の入院症例も多く、急性期を脱した方には退院後も適切な医療が継続できるよう、Transition of care を意識して診療を行っています。後期研修医一人あたり平均で 250 症例を主治医として診ていて、症例数もかなり多く経験できました。外来では後期研修 1 年目から初診外来を担当しました。病棟だけでなく外来もすることで様々な症例を経験でき、一つ一つの症例には必ず指導医のフィードバックがあるので、分からない所は分からないままになることはなく、常に新しい知識が入ってきてとても勉強になりました。このように多様な症例を経験することで急性期の全身管理から慢性期の対応まで身につけることが出来、専門科に進む前の内科の土台作りとして、とても充実した研修が受けられたと思います。

学術活動やカンファレンスも充実している

高槻病院総合内科では国内や国外を問わず積極的に学会発表をしています。私も 2019 年度にオーストラリアでのポスター発表を経験させて頂きました。抄録やスライドの修正から英語での質疑応答のシミュレーションまでサポート体制が非常に充実しており、初めての海外学会でも不安なく発表に臨むことができました。他にも医学雑誌への投稿など、たくさんの経験を積むことが出来ました。

また、毎朝 8 時 10 分からは日替わりで MKSAP 勉強会や EBM、症例検討などを行っており、分かりやすいスライドの作り方や上手なカンファレンスの司会や進行の方法なども身につけることが出来ました。その他、医学的なことに留まらず、医師としてのキャリアの構築の方法や他科と上手く交渉する方法など医師としての素養も経験豊富な指導医の元で身につけることが出来たと思います。

ワークライフバランスが保たれていて、オンオフがはっきりしている

高槻病院総合内科では仕事中は全力で仕事に取り組み、オフはしっかり休むということが徹底されていました。例えば、当直明けは必ず 12 時には帰ることが出来、週に 1 回は必ず 24 時間以上の連続した休みがあります。また、夏休みも最大で連続して 9 日取ることも可能です。仕事だけでなくオフの時間を楽しむことも出来ました。

以上のように高槻病院総合内科での 2 年間はとても楽しく働くことが出来、内科医として大きく成長することが出来たと思います。これから専門研修が始まりますが、総合内科マインドをもった専門医になれるよう頑張っていきたいと思います。